

大会名 Competition	第39回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-111	Year Month Day Time 2026 年 5 月 5 日 9 : 00
場所 Place	NODENアリーナ (能代総合体育館)

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA	チームB
東 山	開志国際
92 ●	98 ○
19 1st 27 31 2nd 23 18 3rd 18 24 4th 30 0 T	

主審:Crew chief  
久米 克弥 秋田  
副審:Umpire  
石郷岡 いつか 秋田  
山本 光太郎 宮城  
テーブルオフィシャル:Table officials  
秋田県T0委員会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	✓	鈴木 勇功		16	0	8	0	1	4	×	池田 楓真	cap	27	1	10	4	2
5	✓	中村 颯斗	cap	27	4	5	5	1	5	×	高橋 歩路		23	5	3	2	2
6	✓	大森 来玖		12	3	1	1	4	6	✓	大瀧 稜真		0	0	0	0	1
7	×	新井 伸之助		4	0	2	0	0	7		北村 拓己		-	-	-	-	0
8	×	佐藤 久遠		8	1	2	1	3	8		小川 凜太郎		-	-	-	-	0
9	×	イトウ フウシャ エノック		11	0	5	1	5	9		ジョーンズ 堅太		-	-	-	-	0
10	×	香月 遥斗		2	0	1	0	0	10		佐藤 海音		-	-	-	-	0
11		野呂田 桜輔		-	-	-	-	0	11		佐藤 大征		-	-	-	-	0
12		朝田 勇希		-	-	-	-	0	12	×	恒岡 ケイマン		29	3	8	4	1
13	×	吉本 拓司		0	0	0	0	1	13	×	イヅト ユウジ		13	3	2	0	3
14		八重樫 志温		-	-	-	-	0	14	×	AJAK ALUONG AJAK ALUONG		3	0	1	1	5
15	✓	ゼンザ マワ クレド		11	0	3	5	1	15		村井 衛		-	-	-	-	0
16	✓	伊藤 凪		1	0	0	1	3	16		塩谷 空牙		-	-	-	-	0
									17		岩朝 ローマ		-	-	-	-	0
									18	✓	堀内 遥		3	1	0	0	4
コーチ		大澤 徹也						0	コーチ		富樫 英樹						0
Aコーチ		東 武史						0	Aコーチ		津野 祐樹						0
合計				92	8	27	14	19	合計				98	13	24	11	18

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率 イントシュート 2P:2P率 イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

### Score ranking [Team]

1	27	29.35%	中村 颯斗
2	16	17.39%	鈴木 勇功
3	12	13.04%	大森 来玖

1	29	29.59%	恒岡 ケイマン
2	27	27.55%	池田 楓真
3	23	23.47%	高橋 歩路

### Score ranking [Game]

1	29	恒岡 ケイマン	開志国際	2	27	中村 颯斗	東 山	2	27	池田 楓真	開志国際
---	----	---------	------	---	----	-------	-----	---	----	-------	------

第39回能代カップは3日目。第1試合は勝者が優勝となる事実上の決勝戦となった。東山の2連覇か、前回大会で連覇を止められた開志国際のリベンジか。

1Q、東山は#8佐藤の3Pなどで得点し、開志国際は速攻から確実に得点するなど点を取り合う序盤となる。その後、開志国際は#14アジャックが速攻からダンクシュートを見せ、#5高橋が4本の3Pを決めるなど抜け出す。19-27の開志国際リードで1Q終了。

2Q、東山は5人全員を交代。開志国際はおよそ4分間無得点のスタートとなる。その間に東山は#5中村の得点で7:14に同点とし、#15クレドのゴール下でリードを奪う。開志国際は#4池田のダブルクラッチでようやく得点すると、そこから東山がリードを保ったまま得点を取り合う形となる。東山#5中村がこのQだけで16得点する活躍を見せる。開志国際#4池田がブザービーターとなるドライブを決めると50-50の同点で前半を終える。

3Q、早い段階で開志国際#14アジャックが5ファールで退場してしまう。インサイドが厳しくなることが予想されたが、開志国際はここから#12恒岡がインサイドを支えはじめてパワープレーやリバウンドで活躍する。東山は#9エノックがオフェンスリバウンドからシュートを決めるなど奮闘して拮抗した展開が続く。3Qが終わっても68-68の同点。

4Q、開志国際が3P攻勢を見せる。開始3分で#12恒岡が3本、#13イヘツが1本と4本をそろえてリードを奪う。ここで#12恒岡のアリウープを狙った#4池田のバックコートからのパスがリングに入る3Pがあり、開志国際が抜け出す形になる。終盤は開志国際#4池田が抜群のゲームコントロールと効果的なドライブを見せ、92-98で試合終了。開志国際が2年ぶり5回目の能代カップ優勝を飾った。